



あさひ

令和5年9月
学校だより



横浜市立旭小学校 SINCE 1901

夏の高校野球から学ぶ「多様性」

校長 益子 照正

夏休みが明けましたが、記録的な猛暑となった今夏、依然として暑さが収まっていない状況での再開となりました。夏休み中にはあさひっ子それぞれの生活リズムがあっただけから、一律に教育活動を進めるのではなく、熱中症対策に万全を期し、お子さんの体調や状況に合わせた柔軟な教育活動の再開を心がけます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、ここ数日、私の住まいからほど近い日吉地区が歓喜に沸いています。皆さんもご存じのように、阪神甲子園球場で行われていた第105回全国高等学校野球選手権記念大会で、地元の慶應義塾高校が107年ぶりの優勝を果たしたからです。

身近なまちが盛り上がることもうれしいことですが、私は40年前の第65回選手権大会のときに高校3年生だった元高校球児（県大会で敗退）なので、高校野球からいろいろな革新が垣間見えたこともうれしく思っていることのひとつです。

慶應義塾高校の選手を見てみますと、丸刈り頭の選手は一人もおらず、これまで主流であった高校野球の概念に新たな風を起こしてくれたような気がします。また、自主性を尊重し「エンジョイベースボール」を標榜していた選手たちの表情が、実に野球という自らが選んだ運動文化を楽しんでいるようでした。私は、開幕日に観客席にいたので、他校の様子を見ておりますと、5年前の第100回大会で大きく話題になった、ボールを体に当てて痛がる相手チームの選手に冷却スプレーを持っていく姿は、足をつってしまった相手に飲料を手渡すまでに発展しています。また、攻撃中に相手守備陣が集合して作戦確認をする場面には、攻撃側の応援は楽器の演奏を止める、もしくは音量を一気に下げることから、相手への敬意がうかがえます。テレビ報道からも、女子マネージャーの戦術理解や助言、技術的支援の内容がプレイヤーと同等もしくはそれ以上の高度なものであることがわかります。報道で揶揄されてきた「勝利至上主義」は、高校生の主体的な総合的な学びに置き換わっているようです。



慶應義塾高校の森林監督は決勝戦を前に、自校の躍進によって「高校野球の多様性を広げることにつながる」と語っていらっしゃいましたが、「多様性」という言葉を引用したところに感動を覚えました。「これからはこうあるべきだ」と一つの価値観を主張するのではなく、「いろいろな考え方、あり方があってよい」との選択肢を広げるものだったからです。

準決勝で慶應義塾高校が破った茨城県の土浦日大高校の選手たちも同様に丸刈り頭ではありませんでしたが、キャプテンだけは丸刈りでした。おそらく、チームとしては丸刈りを強制していないだけであって、自らの意思でそうしたのだと思います。福井県代表の北陸高校は、逆に、ほとんどが丸刈り頭でしたが、そうではない選手が1名だけ出場していました。

伝統があればあるほど、過去に大事にしてきたものを変えていくことに勇気や労力が必要です。教育も全く同じなのではないでしょうか。時代とともに多様な考え方や取組が重要になってきています。夏休みが明けても、しばらくは猛暑が続きそうですが、旭小学校においても教職員とともに伝統を継承しつつ多様性を尊重していきます。ご理解・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

熱中症における事故が複数報告されていることから、児童の安全を最優先としてとらえ、本日の再開から9月1日(金)までの間、本校においては、原則として屋外での活動を行わないこととします。状況によっては変更することがあります。

★音楽会について★

本年度の音楽会は、下記の日程で開催予定です。

- 10月13日(金) 5年生
- 11月10日(金) 3・4年生
- 12月 1日(金) 6年生
- 1月26日(金) 1・2年生

会場の都合で、保護者席が180名分となるため、各ご家庭2名までの参観とさせていただきます。そのため2学年実施の場合は入れ替え制とします。希望者が多い場合は抽選を行い、座席指定をさせていただきます。ご了承ください。

なお、抽選は児童が行います。簡単な抽選の流れを右に記載しました。ご確認ください。

詳細につきましては、それぞれの学年の開催時期に合わせてお知らせを配付します。

★座席決定までの流れ★

①座席数希望調査

座席必要数が180名分以上

座席必要数が180名分以内

座席必要数が2名分の方②へ

座席必要数が1名分の方③へ

②第1次抽選（2名分希望の方のみ）
抽選の結果

2名分確保した

1名分確保した方
※もう1名の方は立ち見

③第2次抽選（座席番号の抽選）

- ※2名分の方は連番
- ※結果は申し込みチケットに記入し返却。
- ※当日チケットを持参し参観